

報道発表資料

平成 29 年 8 月 10 日
独立行政法人国民生活センター

2016 年度の PIO-NET にみる危害・危険情報の概要

この概要は、PIO-NET^(注1)により収集した 2016 年度の「危害・危険情報」^(注2)をまとめたものです。当該情報の詳細については、「消費生活年報 2017」（2017 年 10 月発行予定）に掲載する予定となっています。

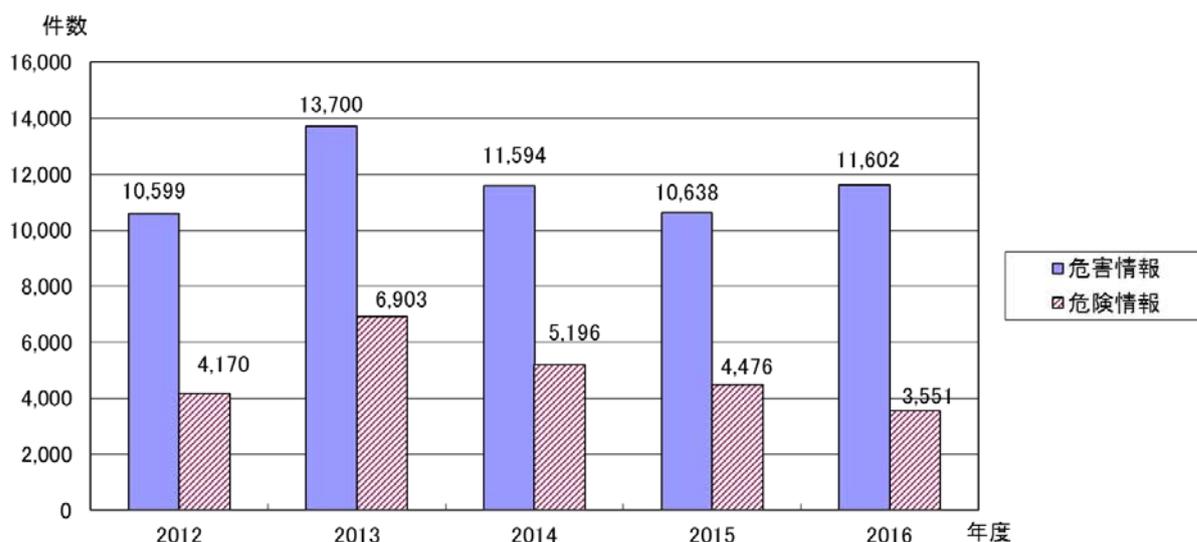
2016 年度の傾向と特徴

- ・「危害・危険情報」は 15,153 件で、対前年度比で見ると 0.3%増となっています。
- ・「危害情報」は 11,602 件で、上位 3 商品・役務は「健康食品」、「化粧品」、「医療サービス」でした。「危険情報」は 3,551 件で、上位 3 商品・役務は「四輪自動車」、「こんろ類」、「調理食品」でした。
- ・「危害情報」は、昨年度と比べ「調理食品」が 74 件減少、「美容院」が 86 件減少しましたが、「健康食品」が 968 件増加したほか、「飲料」が 205 件増加、「化粧品」が 132 件増加したことなどが影響し、964 件増加しました。
- ・「危険情報」は、昨年度と比べリコールの影響で「こんろ類」が 249 件増加しましたが、1 位の「四輪自動車」が 137 件、「調理食品」が 159 件、「菓子類」が 92 件それぞれ減少したことが影響し、925 件減少しています。

(注 1) PIO-NET（パイオネット：全国消費生活情報ネットワークシステム）とは、国民生活センターと全国の消費生活センター等をオンラインネットワークで結び、消費生活に関する相談情報を蓄積しているデータベースのこと。

(注 2) 「危害・危険情報」とは、商品・役務・設備に関連して、身体にけが、病気等の疾病（危害）を受けたという情報（「危害情報」）と、危害を受けたわけではないが、そのおそれがある情報（「危険情報」）をあわせたもの。データは、2017 年 5 月末日までの登録分。なお、2007 年度から国民生活センターで受け付けた「経由相談」は除いており、2015 年度以降は消費生活センター等からの経由相談を除いている。

図. 「危害・危険情報」の収集件数の推移



1. 「危害情報」の概要

2016年度にPIO-NETにより収集した「危害情報」は11,602件でした(2015年度:10,638件)。

(1) 商品別分類別件数

商品別分類別にみると、1位は「食料品」(「健康食品」、「飲料」、「調理食品」など) 3,173件(27.3%)、2位は「保健・福祉サービス」(「医療サービス」、「エステティックサービス」、「歯科治療」など) 2,844件(24.5%)、3位は「保健衛生品」(「化粧品」、「医薬品類」、「家庭用電気治療器具」など) 1,896件(16.3%)、4位は「住居品」(「家具類」、「洗濯用洗剤」、「ふとん類」など) 935件(8.1%)、5位は「他のサービス」(「外食」など) 579件(5.0%)でした。(表1)

具体的に商品・役務別にみると、1位は「健康食品」1,866件(16.1%)で、前年度(3位、898件)から968件増加しました。2位は「化粧品」1,168件(10.1%)で、前年度(1位、1,036件)から132件増加しました。3位は「医療サービス」926件(8.0%)で、前年度(2位、904件)から22件増加しました。4位は「エステティックサービス」564件(4.9%)、5位は「外食」467件(4.0%)でした。(表2)

表1. 「危害情報」の商品別分類の上位5位の推移

順位	2016年度			2015年度			2014年度		
	商品別分類	件数	割合(%)	商品別分類	件数	割合(%)	商品別分類	件数	割合(%)
1	食料品	3,173	27.3	保健・福祉サービス	2,804	26.4	保健・福祉サービス	3,262	28.1
2	保健・福祉サービス	2,844	24.5	食料品	2,259	21.2	保健衛生品	2,136	18.4
3	保健衛生品	1,896	16.3	保健衛生品	1,791	16.8	食料品	2,122	18.3
4	住居品	935	8.1	住居品	932	8.8	住居品	1,096	9.5
5	他のサービス	579	5.0	他のサービス	602	5.7	他のサービス	660	5.7

表2. 「危害情報」の上位5商品・役務の推移

順位	2016年度			2015年度			2014年度		
	商品・役務	件数	割合(%)	商品・役務	件数	割合(%)	商品・役務	件数	割合(%)
1	健康食品	1,866	16.1	化粧品	1,036	9.7	化粧品	1,227	10.6
2	化粧品	1,168	10.1	医療サービス	904	8.5	医療サービス	1,205	10.4
3	医療サービス	926	8.0	健康食品	898	8.4	エステティックサービス	622	5.4
4	エステティックサービス	564	4.9	エステティックサービス	521	4.9	健康食品	583	5.0
5	外食	467	4.0	外食	501	4.7	外食	544	4.7

(2) 危害内容

1位は、「皮膚障害」3,042件(26.2%)で、「化粧品」、「健康食品」、「エステティックサービス」などに関するものが増えてきています。「健康食品」の300件の増加、「化粧品」の127件の増加を含め、前年度(2位、2,590件)から452件増加しました。

2位は、「その他の傷病及び諸症状^(注3)」2,813件(24.2%)で、「医療サービス」、「歯科治療」、「健康食品」などに関するものも多く、体調がすぐれない、気分が悪い、痛みがあるなどの症状が目立っています。前年度(1位、2,841件)から28件減少しました。

3位は、「消化器障害」1,917件(16.5%)で、「健康食品」、「飲料」、「外食」などに関するものが増えてきています。「健康食品」の969件、「飲料」の273件を含め、前年度(3位、1,224件)から693件増加しました。

4位は、「擦過傷・挫傷・打撲傷」の780件(6.7%)で、「エステティックサービス」、「自転車」、「商品一般」などに関するものが増えてきています。前年度(4位、836件)から56件減少しました。

5位は、「熱傷」676件(5.8%)で、「エステティックサービス」、「医療サービス」、「外食」などに関するものが増えてきています。前年度(6位、643件)から33件増加しました。

(注3)「その他の傷病及び諸症状」には、脱毛、切れ毛、頭痛、腰痛、発熱、精神不安定等が該当し、根本的な原因が明らかでないものが含まれる。

表3. 危害内容別上位5位の推移

順位	2016年度 11,602件			2015年度 10,638件			2014年度 11,594件		
	危害内容	件数	割合(%)	危害内容	件数	割合(%)	危害内容	件数	割合(%)
1	皮膚障害	3,042	26.2	その他の傷病及び諸症状	2,841	26.7	その他の傷病及び諸症状	3,567	30.8
2	その他の傷病及び諸症状	2,813	24.2	皮膚障害	2,590	24.3	皮膚障害	2,782	24.0
3	消化器障害	1,917	16.5	消化器障害	1,224	11.5	消化器障害	1,161	10.0
4	擦過傷・挫傷・打撲傷	780	6.7	擦過傷・挫傷・打撲傷	836	7.9	擦過傷・挫傷・打撲傷	825	7.1
5	熱傷	676	5.8	刺傷・切傷	746	7.0	熱傷	731	6.3

(3) 被害者の性別・年代

危害を受けた被害者の性別件数は、女性が8,549件(73.7%)、男性が2,832件(24.4%)で、「健康食品」や「化粧品」などの件数の増加により、女性の割合が前年度(7,464件、70.2%)と比べ増加しました。

年代別件数では、前年度と同じく40歳代が2,104件(18.1%)で最も多く、次いで50歳代が1,854件(16.0%)となっています。以下、70歳以上1,641件(14.1%)、30歳代1,588件(13.7%)、60歳代1,585件(13.7%)、20歳代1,086件(9.4%)、10歳代337件(2.9%)、10歳未満336件(2.9%)と続いています。また、10歳代から60歳代全ての年代で件数は増加しました。(表4)

次に、被害者の年代別に危害の最も多い商品・役務をみると、10歳未満は「外食」32件、10歳代は「化粧品」49件、20歳代は「エステティックサービス」163件、30歳代以上の各年代では「健康食品」で、30歳代が292件、40歳代が482件、50歳代が361件、60歳代が207件、70歳以上が218件となっています。

「健康食品」は、10歳代から70歳以上で件数が増加し、「外食」は10歳未満から40歳代と60歳代で件数が減少しました。また、「化粧品」は50歳代以上の年代で件数が減少しています。(表5)

表 4. 年代別・性別危害件数

年代	男		女		不明・無回答 (未入力)		計	
	件数	割合(%)	件数	割合(%)	件数	割合(%)	件数	割合(%)
10歳未満	161	5.7	124	1.5	51	23.1	336	2.9
10歳代	125	4.4	205	2.4	7	3.2	337	2.9
20歳代	213	7.5	871	10.2	2	0.9	1,086	9.4
30歳代	303	10.7	1,284	15.0	1	0.5	1,588	13.7
40歳代	420	14.8	1,681	19.7	3	1.4	2,104	18.1
50歳代	435	15.4	1,418	16.6	1	0.5	1,854	16.0
60歳代	439	15.5	1,146	13.4	0	0.0	1,585	13.7
70歳以上	454	16.0	1,181	13.8	6	2.7	1,641	14.1
無回答(未入力)	282	10.0	639	7.5	150	67.9	1,071	9.2
合計	2,832	24.4	8,549	73.7	221	1.9	11,602	100.0

※割合は、小数点第2位を四捨五入しており、内訳の数値の合計は100.0%にはなりません。

表 5. 危害情報における年代別の上位5商品・役務

年代	順位	1位	2位	3位	4位	5位
10歳未満		外食	家具類	遊園地・レジャーランド*	菓子類	調理食品
		32	19	18	16	16
10歳代		化粧品	健康食品	自転車	外食	飲料
		49	47	34	18	18
20歳代		エステティックサービス	健康食品	医療サービス	化粧品	外食
		163	156	144	134	70
30歳代		健康食品	化粧品	エステティックサービス	医療サービス	外食
		292	162	135	117	79
40歳代		健康食品	化粧品	医療サービス	エステティックサービス	飲料
		482	208	157	103	103
50歳代		健康食品	化粧品	医療サービス	エステティックサービス	飲料
		361	180	99	79	79
60歳代		健康食品	化粧品	医療サービス	歯科治療	飲料
		207	187	97	75	60
70歳以上		健康食品	医療サービス	化粧品	歯科治療	医薬品類
		218	185	173	57	52
無回答(未入力)		健康食品	医療サービス	化粧品	外食	調理食品
		103	99	71	68	35

2. 「危険情報」の概要

2016年度に収集した「危険情報」は3,551件でした（2015年度：4,476件）。

（1）商品別分類別件数

商品別分類別でみると、1位は「住居品」（「こんろ類」、「電子レンジ類」、「家具類」など）1,294件（36.4%）、2位は「車両・乗り物」（「四輪自動車」、「自転車」、「自動二輪車」など）673件（19.0%）、3位は「食料品」（「調理食品」、「菓子類」、「パン類」など）461件（13.0%）、4位は「教養娯楽品」（「携帯電話」、「電話関連機器・用品」、「パソコン」など）402件（11.3%）、5位は「保健衛生品」（「ヘアケア用具」、「化粧品」、「他の保健衛生用品」など）が139件（3.9%）でした。（表6）

具体的に商品・役務別でみると、1位は「四輪自動車」455件（12.8%）、2位は「こんろ類」264件（7.4%）でした。3位は「調理食品」148件（4.2%）、4位は「自転車」90件（2.5%）、5位は「電子レンジ類」85件（2.4%）でした。（表7）

表6. 「危険情報」の商品別分類別の上位5位の推移

順位	2016年度			2015年度			2014年度		
	商品別分類	件数	割合(%)	商品別分類	件数	割合(%)	商品別分類	件数	割合(%)
1	住居品	1,294	36.4	住居品	1,302	29.1	住居品	1,641	31.6
2	車両・乗り物	673	19.0	食料品	950	21.2	車両・乗り物	1,024	19.7
3	食料品	461	13.0	車両・乗り物	871	19.5	食料品	889	17.1
4	教養娯楽品	402	11.3	教養娯楽品	422	9.4	教養娯楽品	513	9.9
5	保健衛生品	139	3.9	保健衛生品	156	3.5	土地・建物・設備	208	4.0

表7. 「危険情報」の上位5商品・役務の推移

順位	2016年度			2015年度			2014年度		
	商品・役務	件数	割合(%)	商品・役務	件数	割合(%)	商品・役務	件数	割合(%)
1	四輪自動車	455	12.8	四輪自動車	592	13.2	四輪自動車	687	13.2
2	こんろ類	264	7.4	調理食品	307	6.9	調理食品	275	5.3
3	調理食品	148	4.2	菓子類	167	3.7	菓子類	152	2.9
4	自転車	90	2.5	家具類	87	1.9	自転車	134	2.6
5	電子レンジ類	85	2.4	外食	80	1.8	電子レンジ類	119	2.3

（2）危険内容

1位は、「その他」503件（14.2%）で製品のリコールに関するものが多く、「こんろ類」、「四輪自動車」、「医療サービス」などに関するものが多くなっています。前年度（2位、522件）から19件減少しました。

2位は、「異物の混入」467件（13.2%）で、「調理食品」、「菓子類」、「外食」などに関するものが多くなっています。「調理食品」が155件、「菓子類」が80件減少したこともあり、前年度（1位、924件）から457件減少しました。

3位は、「発煙・火花」445件（12.5%）で、「電子レンジ類」、「四輪自動車」、「電気掃除機類」などに関するものが多くなっています。「電子レンジ類」が11件増加したものの、「電気掃除機類」「修理サービス」「室内照明器具」がそれぞれ3件減少するなどして、前年度（4位、477件）から32件減少しました。

4位は、「過熱・こげる」443件（12.5%）で、「携帯電話」、「パソコン周辺機器・用品」、「電話関連機器・用品」などに関するものが多くなっています。前年度（5位、447件）から4件減少しました。

5位は、「機能故障」371件（10.4%）で、「四輪自動車」、「修理サービス」、「自転車」などに関

するものが多くなっています。前年度（3位、498件）から127件減少しました。（表8）

表8. 危険内容別上位5位の推移

順位	2016年度			2015年度			2014年度		
	危険内容	件数	割合(%)	危険内容	件数	割合(%)	危険内容	件数	割合(%)
1	その他	503	14.2	異物の混入	924	20.6	異物の混入	841	16.2
2	異物の混入	467	13.2	その他	522	11.7	機能故障	667	12.8
3	発煙・火花	445	12.5	機能故障	498	11.1	過熱・こげる	589	11.3
4	過熱・こげる	443	12.5	発煙・火花	477	10.7	発煙・火花	569	11.0
5	機能故障	371	10.4	過熱・こげる	447	10.0	破損・折損	538	10.4

○情報提供先

消費者庁 消費者教育・地方協力課（法人番号 5000012010024）

消費者庁 消費者安全課（法人番号 5000012010024）

内閣府 消費者委員会事務局（法人番号 2000012010019）

（本件問い合わせ先）

商品テスト部：042-758-3165

別 添

<参考資料 2016年度の「危害情報」「危険情報」における上位3商品・役務の概要>

1. 「危害情報」

①健康食品（1,866件）

「健康食品」は1,866件で、危害情報全体に占める割合は16.1%となっており、前年度（3位、898件）から968件増加しました。

性別では、女性が1,622件(86.9%)と9割近くを占めており、年代別では、40歳代が482件(25.8%)で最も多く、次いで、50歳代361件(19.3%)、30歳代292件(15.6%)の順となっています。

「健康食品」の内訳をみると、ダイエット食品などを含む「他の健康食品」が1,074件(57.6%)で最も多く、次いで「酵素食品」が昨年度(190件)から344件増加し、534件(28.6%)となっています。

危害内容は、「消化器障害」が969件(51.9%)と5割を超え、次いで、「皮膚障害」592件(31.7%)、「その他の傷病及び諸症状」265件(14.2%)の順となっています。

<事例>

- ・スマホで青汁の初回お試しを注文。湿疹が出て体調不良になったと言ったのに、4回の定期購入で解約不可と言う。納得がいかない。(40歳代・女性)
- ・ネットでお試し500円という酵素を注文したら、定期コースの申込みになっていた。飲むと下痢をしたり体調不良になるし、やめたいが連絡不能。(50歳代・女性)

②化粧品（1,168件）

「化粧品」は1,168件で、危害情報全体に占める割合は10.1%となっており、前年度（1位、1,036件）から132件増加しました。

性別では、女性が1,015件(86.9%)と9割近くを占めています。年代別では、40歳代が208件(17.8%)で最も多く、次いで60歳代の187件(16.0%)、50歳代180件(15.4%)の順となっています。

「化粧品」の内訳をみると、「化粧クリーム」211件(18.1%)、「基礎化粧品(全般)」168件(14.4%)、「乳液」98件(8.4%)、「化粧水」91件(7.8%)で48.6%と約5割を占めています。危害内容は、「皮膚障害」が1,035件(88.6%)と全体の約9割を占め、次いで「その他の傷病及び諸症状」98件(8.4%)、「呼吸器障害」11件(0.9%)の順となっています。

<事例>

- ・通信販売で化粧品をお試しのつもりで注文した。定期コースだが、いつでも解約できると思っていた。肌が乾燥し吹き出物が増えたので解約したい。(40歳代・女性)
- ・化粧クリームを使用したら1週間ほど目が開けられないほど顔が腫れた。補償や慰謝料が請求できるか知りたい。(60歳代・女性)

③医療サービス（926件）

「医療サービス」は926件で、危害情報全体に占める割合は8.0%となっており、前年度（2位、904件）から22件増加しました。

性別では、女性が688件(74.3%)、男性が219件(23.7%)となっています。年代別では、70歳以上が185件(20.0%)で最も多く、次いで40歳代が157件(17.0%)、20歳代144件(15.6%)の順となっています。

「医療サービス」の内容をみると、美容医療が420件(45.4%)と5割弱を占めています。危害内容は、「その他の傷病及び諸症状」400件(43.2%)が最も多く、次いで「皮膚障害」193件(20.8%)、「熱傷」67件(7.2%)の順となっています。

<事例>

- ・骨粗しょう症の注射の副作用で、顔や足がむくみ、指先や手に痛みが出た。どの病院に行っても治らない。どこへ相談したらよいか。(70歳代以上・女性)
- ・美容医療機関で^{ハイフ}HIFUによるリフトアップの施術を受けやけどした。後遺症がないようにしてもらいたい。(40歳代・女性)

2. 「危険情報」

①四輪自動車(455件)

「四輪自動車」は455件で、危険情報全体に占める割合は、12.8%となっており、前年度(1位、592件)から137件減少しました。

「四輪自動車」の内訳をみると、「普通・小型自動車」315件(69.2%)が最も多く、次いで「軽自動車」112件(24.6%)となっています。危険内容は、「機能故障」234件(51.4%)が最も多く、次いで「その他」68件(14.9%)、「発煙・火花」37件(8.1%)の順となっています。

<事例>

- ・1カ月前、マンションの駐車場を出て、道路に出る前の通路でエンジンが吹き上がり急発進。停止中の車に衝突した。危険だった。
- ・新車購入後から、アイドルリングストップ機能で停止したエンジンが再始動しないといった不具合が頻発。ブレーキ不良も発生。ディーラーは原因不明と判断し予防的に部品を交換したが不安。

②こんろ類(264件)

「こんろ類」は264件で、危険情報全体に占める割合は、7.4%となっており、前年度(24位、15件)から249件増加しました。

「こんろ類」の内訳をみると、「卓上ガスコンロ」260件(98.5%)が最も多く、次いで「他のコンロ」が4件(1.5%)と続いています。危険内容では、「その他」230件(87.1%)が最も多く、リコールに関するものがほとんどを占めています。

<事例>

- ・カセットコンロを使用中、突然引火した。コンロとボンベのメーカーが違うせいだと言われた。
- ・カセットコンロで煮物をして火を消したあとにカセットボンベが爆発し、ボンベが飛んで壁がへこんだ。のちに新聞でリコール商品だと知った。

③調理食品（148件）

「調理食品」は148件で、危険情報全体に占める割合は4.2%となっており、前年度（2位、307件）から159件減少しました。

「調理食品」の内訳をみると、惣菜、焼き鳥などの「他の調理食品」45件（30.4%）が最も多く、次いで「弁当」31件（20.9%）と続いています。危険内容は「異物の混入」が130件（87.8%）と9割近くを占めています。

<事例>

- ・仕出し屋で骨付き鳥の惣菜を購入したところ、配線止め金具が入っていた。
- ・レトルトカレーを食べていたら、奥歯に固いものが当たった。吐き出してみると、幅1センチ程度の、グリーンとピンクのプラスチックの三角形のかけらのようなものが出てきた。